

〔畜産部門 令和4年度 普及する技術〕

事項名	ペレニアルライグラスの奨励品種「夏ごしペレ」の特性		
ねらい	本県に適するペレニアルライグラスの品種（晩生）を選定するため、「夏ごしペレ（系統名：東北7号PR）」の生育特性及び収量性を調査した結果、既存の奨励品種と比較して越夏性及び永続性に優れることが明らかになったので、奨励品種として普及に移す。		
普及する内容	<p>1 来歴</p> <p>「夏ごしペレ」（系統名：東北7号PR）は、農研機構 東北農業研究センター及び山梨県畜産酪農技術センターにより、四倍体品種・系統の構成栄養系を中心とする晩生の優良20栄養系の多交配から、4回の循環選抜を経て育成された品種である。令和4年から種子販売予定である。</p> <p>2 主な特性（標準品種「ヤツユメ」との比較）</p> <p>(1) 発芽の良否：同程度である。</p> <p>(2) 定着時草勢：やや劣る。</p> <p>(3) 越冬性：同程度である。</p> <p>(4) 早春の草勢：同程度である。</p> <p>(5) 越夏性：優れる。越夏直後の乾物収量も多収である。</p> <p>(6) 倒伏の発生：同程度である。</p> <p>(7) 病害程度：低い。</p> <p>(8) 永続性：利用3年目の秋の被度が高いことから優れる。</p> <p>(9) 収量性：同程度である。</p> <p>(10) 早晩性：晩生品種である。</p>		
期待される効果	<p>1 粗飼料の安定生産に資する。</p> <p>2 夏季の生育停滞、いわゆる夏枯れの回避が期待できる。</p>		
普及上の注意事項	<p>1 放牧利用を想定とした短草刈試験の結果である。</p> <p>2 放牧利用を主とするが、追播による採草利用も可能である。（農研機構発行の夏ごしペレ栽培マニュアル寒冷地暫定版（Web公開）を参照のこと）</p>		
問い合わせ先（電話番号）	畜産研究所 酪農飼料環境部（0175-64-2791）	対象地域及び経営体	県内全域の養牛経営体
発表文献等	なし		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 「夏ごしペレ（東北7号PR）」の生育特性（平成26～29年 青森畜産研）

形質	品種名		備考 (評点法)
	夏ごしペレ	ヤツユメ (標準品種)	
発芽の良否	7.0	7.0	1(極不良)～9(極良)
定着時草勢	7.5	8.0	〃
越冬性	6.1	6.0	〃
早春の草勢	6.0	5.9	〃
越夏性	6.2	5.4	〃
秋の草勢	5.8	5.6	〃
利用3年目の秋の被度	92.5%	87.5%	%
3か年全番草平均草丈	35	35	cm
倒伏程度	1.0	1.0	1(無・極微)～9(甚)
病害程度	3.4	4.3	〃

(注) 1 発芽の良否及び定着時草勢は平成26年秋の調査。

2 秋の被度は平成29年の値。

3 1及び2以外の形質は平成27年～平成29年の3か年平均。

表2 利用年次別乾物収量 (kg/10a) (平成27～29年 青森畜産研)

品種	利用1年目 (平成27年)	利用2年目 (平成28年)	利用3年目 (平成29年)	3か年平均
夏ごしペレ	676 (99)	433 (106)	454 (104)	521 (102)
ヤツユメ (標)	683 (100)	407 (100)	438 (100)	509 (100)

(注) ( ) 内数字は標準品種を100とした指数。

表3 越夏直後乾物収量 (kg/10a) (平成27～29年 青森畜産研)

品種	利用1年目 (平成27年)	利用2年目 (平成28年)	利用3年目 (平成29年)
夏ごしペレ	73	115	80
ヤツユメ (標)	65	108	69

耕種概要

- 1 試験場所 畜産研究所内圃場
- 2 播種期、播種量及び播種方法 平成26年9月17日、2.5kg/10a、散播
- 3 施肥量

(1) 土壌改良資材及び基肥 (10a 当たり)

苦土炭カル：pH6.5 矯正量(改良深度 15 cm)

ようりん：20%ようりん 125kg

基肥：N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=5-5-5kg

(2) 追肥量 (kg/10a)

区分	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
早春	3.0	2.0	2.0
6月中旬	7.5	5.0	5.0
8月上旬	4.5	3.0	3.0
年間計	15.0	10.0	10.0